



“お膝元、北九州でやるという緊張感はものすごいです(笑)”

KAAT×新ロイヤル大衆舎 vol.2 『花と龍』

SPECIAL Interview

長塚圭史

2月のKAAT神奈川芸術劇場を皮切りに、富山、兵庫を経て、3月15日(土)・16日(日)に北九州芸術劇場で千種楽を迎える『花と龍』。原作は、地元・若松に生まれた芥川賞作家・火野葦平の自伝的小説です。明治の終わり、若松港で練り広げられていた激動の時代の物語が、時を超えて今、同じ記憶を宿す北九州の地に還ってくるという奇跡。本公演の演出・出演を担う長塚圭史さんにお話を伺いました。

文：重岡美千代 撮影：細野晋司

—今回、『花と龍』を選んだきっかけは？

KAAT神奈川芸術劇場の芸術監督に就任してから、劇場へ向かう電車の中で読み始めた小説の一つでした。これがめっぼう面白くてですね。駅に着いても途中で止められない。軽やかな筆致にも、内容やキャラクターにも惹きつけられ、「おもしろいなあ」とその描写に魅了されました。それが作者自身の実話なのかと驚き、中村哲さん(※1)の血にもつながっていることが分かり、輝きを増したんです。中村哲さんにも通じると思いますが、主人公の玉井金五郎も「どう生きるか」ということを磨きながら、自分のためというより他人のため、周りのために力を尽くす。その姿に素直に心を打たれました。でも、金五郎ってスーパーマンじゃなくて、いろいろ悩んだり、妻のマン以外の人にちょっと惑わされたりもする。そういう人間臭さも含めて、魅力的な作品だなあと。もう一つ、金五郎が上海コレラで生き残ったということも、僕らがコロナ禍を体験したことにも通じ印象に残りました。

この街ではゴンゾという仕事が身近な存在だったんだと。

—菌やウイルスによる感染症に人が無作為にやられていく。それを経て「生きるとは何ぞや」という命題に向き合う流れは、いつの時代にもあった事象。金五郎が生きた頃も、今も、一寸先が見えない時代であり、だからこそ「まっとうに生きるとは？」という問いが共時性を持って響くのではないかと語る長塚さん。昨年、火野葦平さんの故郷である若松にも足を運ばれたそうですが、実際に緑の地を巡ってみていかがでしたか？

小説では「あの若松の地へ！」と、はるか彼方を見つめるように書かれているんですが、戸畑から見たら「すぐそこじゃないか！」ってね(笑)。

その限界がグッと密着している感じが実感できたのはよかったですね。視察をする中では「自分の親戚もゴンゾだった」「どたら婆さんのような人だった」という話も聞いたし、出会った人たちからも「おー、『花と龍』やるんだ」とすぐに返ってくる。かつてこの地にゴンゾという仕事があったって、それほど身近な存在だったんだな、と思うと緊張感が高まりました。火野葦平の旧居の河伯洞(かはくどう)に行った時には、「あの殴り込みのシーン、どうやってやるんですか？」と聞かれたり…。

—そのシーンはありますか？

あります、僕も小説の中で好きなシーンなので。舞台ではすごくシンプルにやっているんですが、日々、魅力を増していると思います。

「語り」と観客の想像力で、舞台と客席の一体感が楽しめる。

—本作の見どころの一つとして、舞台上に特設屋台が出現して、劇場ごと楽しむ芝居小屋のようなにぎわいを観客の皆さんに体感してもらおうという画期的な取り組みがあります。その他の演出プランは…？

この小説を芝居にしたい、とすぐに思ったんですが、あまりにもスケールが大きいし。どうしよう

かと考えた時に思いついたのが、新ロイヤル大衆舎(※2)でやった「語り」を使うスタイルでした。「語り」というのは、落語のようにお客さんの想像力にお任せするやり方なんです。語りが「ここは海」と言えば、音響や照明でその想像を助けてくれる効果は出しますが、基本的には観客がその風景を創るんです。しかも今回は舞台上に屋台が出ていて、観客はそこを通過して客席に行くので、市場のにぎわいを間近に感じられる仕掛けになっている。仮想の屋台なんだけど、そこに立つ観客のエネルギーが加わることで舞台と客席が一体となって、空間全体が一つの街のようになるんです。さっきまで自分が居た場所が、物語の中の街に変わって行って、明治の終わりの頃を実際に生きた登場人物が出てくる。これって実はすごいことが脳内で起きていて、お客さんと僕らが一緒になって一つの世界をパッと創りあげているんですね。

—舞台上で、時間と空間を超えて、かつてこの街を生きた人々と今を生きる人々が交錯する。何とも楽しみになりました。ありがとうございました。

(※1) パキスタンやアフガニスタンで人道支援に尽くし、2019年に現地で凶弾に倒れた。火野葦平は母方の伯父にあたる。
(※2) 日本の演劇を明るく照らす「新ロイヤル大衆舎」として、福田転球・山内圭哉・長塚圭史・大堀こういちの4名で2017年に結成。

Information

KAAT×新ロイヤル大衆舎 vol.2 「花と龍」

3月15日(土) 15:00開演 16日(日) 13:00開演

J:COM北九州芸術劇場 中劇場

チケット好評発売中!

[原作] 火野葦平 [脚本] 齋藤雅文
[演出] 長塚圭史 [音楽] 山内圭哉
[出演] 福田転球、安藤玉恵

松田凌、村岡希美、稲荷卓央、北村優衣
山内圭哉、長塚圭史、大堀こういち ほか



公演情報は
こちら

